

## 日本学術会議は、 一貫して戦争へ加担しない 姿勢をとり続けている

日本学術会議は、戦前に科学者が国策に利用され、戦争への道を進んでしまったことを反省し生まれた。一貫して戦争へ加担しない姿勢をとり続けている。菅政権は、その姿勢が気に入らないようだ。戦争への道は決して進まないという意志を表している研究者たちを意図的に排除した。

排除された6人の中に、東大文学部教授加藤陽子氏がいる。日本近現代史の専門家だ。通常教える対象は、学部生(3年生以上)と大学院生だが、もっと若い世代にこそ教えるべきと中高生に向けた講義を試みた。それが本となり「それでも、日本人は『戦争』を選んだ」にまとめられた。高校日本史は、最も学ばなければならぬ戦前から戦後にかけての時代を時間不足という理由でおざなりにしか教えられていない。加藤陽子氏は、栄光学園歴史研究部の中学1年から高校2年までの生徒たちを対象に日清戦争から太平洋戦争までを史実を積み重ねて読み解く講義を行った。現代史の最も重要な単元である。なぜ、それらの戦争が起きたか。難解な内容を中高生に向けて話すのは至難の業だが見事だ。この人こそ日本学術会議に最も相応しいメンバーだと思う。特定秘密保護法に反対の立場だ。政権にとって都合の悪いメンバーは選択しないという以外にどんな排除の理由があるのか。平和な時代は、一人一人の不断の努力なしには続かない。沈黙していたら危険な道を再び繰り返す。抗議の声を上げよう。

平和部会 三谷裕美子

## 「新型コロナウイルス感染症～暮らしへの影響は」

### アンケートから

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大が世界中に広がりました。日を追って増え続ける感染者数や重症者数に不安をぬぐえない状況です。休校・自粛・すどもり・テレワーク、そしてGO TOキャンペーンなど様々なことで私たち市民は大きな影響を受けています。現実に市民が具体的に何を考えどう思っ、どうしたいのかを聞き、政策提案につなげたいと考え200人ほどにアンケートを取り、20%を超える回収率でした。

#### ・休校の影響

勉強の遅れ、学校行事がなくなった事、昼食の用意が大変、子供だけの留守番が増えた、子供がいるので外出できないなど。

#### ・生活への影響

外出の機会が減った、特養にいる親の面会ができない、親孫に会えなくなった、外出自粛によるストレスが増えた、コミセンでの体操がなくなり健康維持が難しいなど。

#### ・仕事への影響

パートが休業となった。減収となった。

#### ・国や自治体へ要望したいこと

医療従事者に対する補償、医療スタッフの確保、発熱時には速やかな受診をできるように、安心して入院できる十分な病床を、PCR検査を受けやすくして、GO TOキャンペーンの中止など、海老名市感染症コールセンターは必要なのか疑問。

不安に思いながらも言葉に出すことができない市民の声が聞こえてきます。(高林)

### ●つつ木みゆきのお話タイム●

コロナ感染症予防のためにお話タイムは今回は中止します。ご希望の場合はご連絡ください。

問い合わせ先：つつ木 046-234-3264

**編集後記** 2021年の新たな年を迎えました。「一人ひとりを大切に自分らしく生きられるまちづくり」を目指して海老名ネットは、創立30年目を昨年迎えました。30年前は、珍しい女性議員初当選から、現在6人目の議員が代わりあい「市民の声を市政に」届けています。日常生活で、疑問に思うこと、困っていることなど一緒に解決していきましょう。(S)

\*生き生きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。お手伝いしていただける方を募集しています。事務所までご連絡ください。

## 永池川清掃



毎年5月に開催の川歩きを今年はコロナ禍で中止としました。市内を水源とし南北に流れ相模川に注いでいる永池川。市民としてきれいな川にしておきたいとの思いから、この秋3回の清掃活動をしました。2回目と3回目は水量が少なくなった川に降りて、中州の草むらに投げ捨てられたゴミを拾い、網で引き上げ分別・回収をしました。毎回、スーパーの袋にペットボトル・コーヒー缶・残飯などを入れた無分別の家庭ごみが多く、中州には布団・電気釜・衣類など投げ捨てられていました。

捨てればゴミ、分別すれば資源です。ゴミの有料化から1年経ちました。分別は進み、可燃ゴミは19%以上減少したと市は公表していますが、見えないところへの不法投棄は増えていると思われる。橋付近に「ゴミの投げ捨て禁止!」などの注意喚起の看板が必要です。

捨てられたゴミは相模湾へ流れ、マイクロプラスチック等になり、生態系を壊します。また、地球温暖化・異常気象は、私たちの消費行動に直結しています。コロナ禍で私たちは生活の在り方を見直しています。大量生産・大量消費・大量焼却のサイクルを止め、再生可能なものを購入し、地球に負荷の少ない行動をとることが必要です。(永池川川歩き会 西田)

## 報告 気候変動対策は、待ったなし!!

気候ネットワーク理事の平田仁子さんの学習会に参加しました。気候変動による異常気象は、温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)の増加により地球が温暖化となることで発生しています。熱波による森林火災・記録的猛暑・大型台風・集中豪雨など異常気象による自然災害が危機的な問題となっています。

パリ協定では、世界平均気温の上昇を産業革命前と比べ1.5℃に抑える努力目標とCO<sub>2</sub>排出量を2050年実質ゼロ目標としています。気温は、既に1℃上昇しており1.5℃(残り0.5℃)上昇するとサンゴ礁が絶滅し、洪水などが起き、更に深刻な異常気象が多発すると予測されています。2030年までの10年間の行動が鍵とされ各国のCO<sub>2</sub>対策が急務です。特にCO<sub>2</sub>発生の最大の原因は石炭火力発電です。日本は、先進国で唯一石炭火力発電を推進しているため世界から非難を浴びています。EUでは、既に再生可能エネルギーはもとより、CO<sub>2</sub>を出さない産業へ移行しはじめています。

日本は、やっと「2050年CO<sub>2</sub>ゼロ宣言」をしましたが石炭火力発電所は稼働中、計画中であるという驚くべき状況です。CO<sub>2</sub>ゼロの安全な再生可能エネルギーへの転換が急務です。脱原発・脱石炭火力発電による「脱炭素社会」の実効性ある議論を進め一刻も早い対策が必要です。

ゴミの減量化や再生可能エネルギーの地産地消などを進めるべきです。次の世代に持続可能な安定した気候と社会を残していくためには、CO<sub>2</sub>削減の対策は、待ったなしです。(斎藤)

(先日のNHKスペシャルによると1.2℃上昇しているとのことでした。)